

ネクストウェアがご提案する 戦略的経営課題解決手法

～RPAとiCDの効果的融合～



ネクストウェア株式会社
RPA営業本部
キャリア推進部

経営戦略達成に必要な大きな2つの課題

- ①「煩雑・非効率な業務」と「増大するコスト」
- ②「人財不足」と「人材育成」「高離職率」



実はこれらは密接な関係。同時に対策を!!

●働き方改革を妨げる障害



2つの課題の密接な関係

① 工程(作業)時間を短縮する
＝新たな時間を生み出す



② 新たに生まれた時間を活用する

これらを融合させることが非常に効果的！
ネクストウェア株式会社はご提案いたします。



1つ目の課題

① 工程(作業)時間を短縮する
＝新たな時間を生み出す



② 新たに生まれた時間を活用する

①コスト削減・業務効率化のために

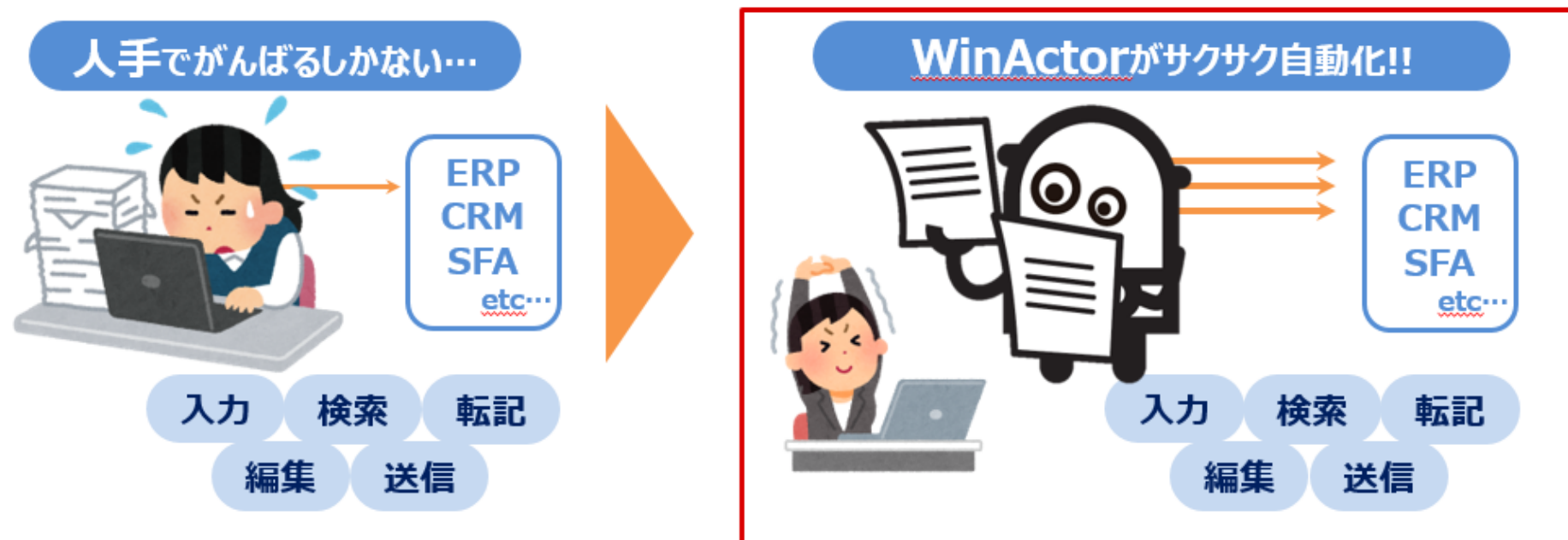
①工程(作業)時間を短縮する
=新たな時間を生み出す



【RPA】WinActor , WinDirector



なぜ、今RPAなのか

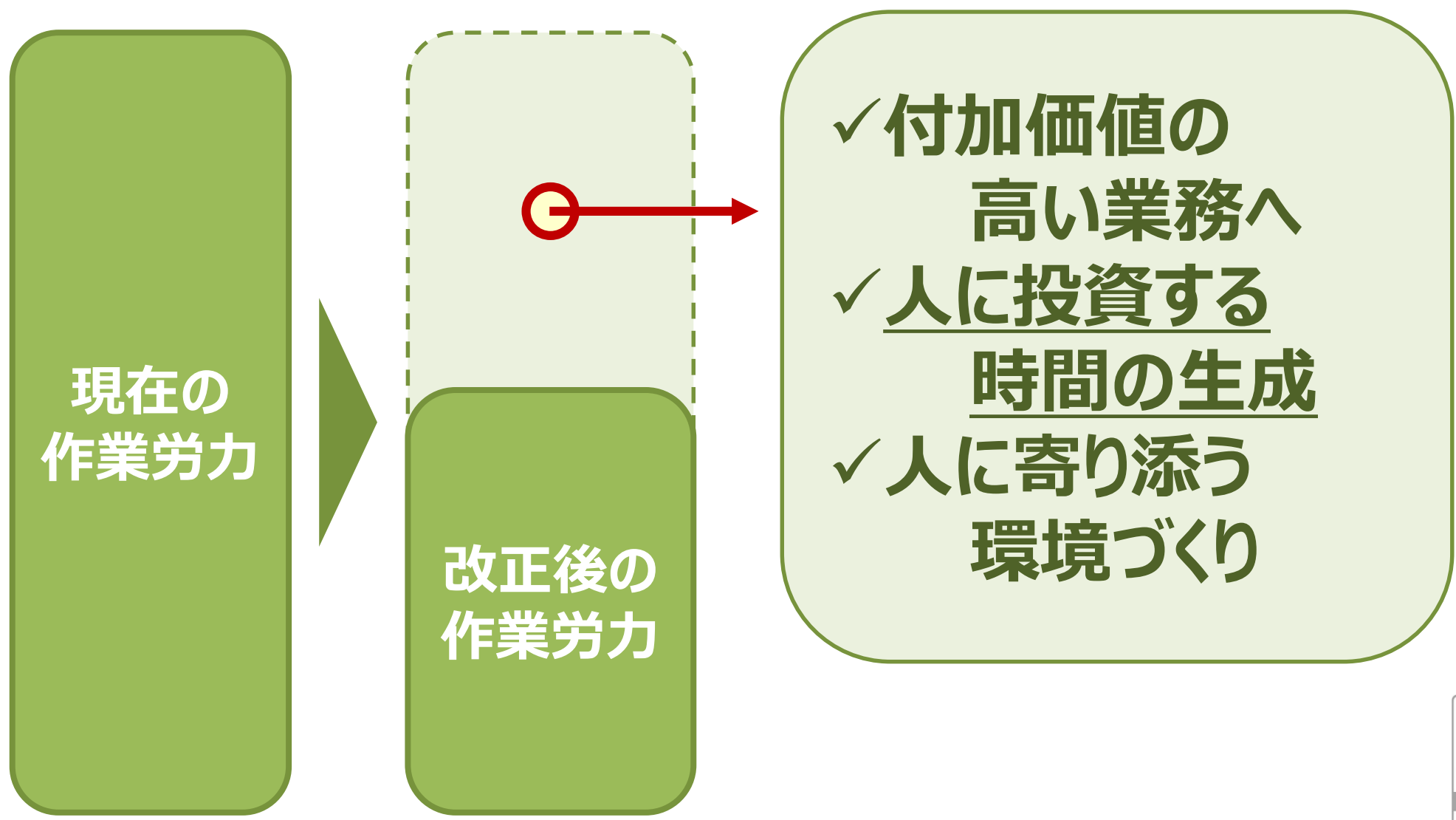


RPAツール「WinActor」が働き方改革の切り札に

出典 WinActor説明資料(Nextware)



RPA導入による効果



2つ目の課題

① 工程(作業)時間を短縮する
＝新たな時間を生み出す



② 新たに生まれた時間を活用する
＝社員に投資する時間の生成

②人への投資(人的資源活用)とは

②新たに生まれた時間を活用する
＝社員に投資する時間の生成



企業の今と未来を「見える化」



自社の戦力の強化

見える化が必要な要件

経営課題解決に必要な要件

- ✓ 経営戦略からつながる**AsIs(現状)**と**ToBe(あるべき姿)**の全体図
- ✓ 経営層から社員までが納得した具体的行動目標の策定
- ✓ 目標を達成させるための現状の戦力マップ作成
- ✓ 戦略的人員配置と戦略的人財育成計画の策定
- ✓ 新規事業挑戦へのメンバー候補選出

どうすれば見える化するのか

企業の今と未来を「見える化」



iCD



iCD とは

iCD (i コンピテンシ ディクショナリ)

- ・IPA(独立行政法人情報処理推進機構)が2015年に発表した、IT人財育成ツールです。
- ・iCDは、「仕事を定義する」タスクと「仕事を遂行するための素養を定義する」スキルに分かれた、世界初の辞書です。



iCD のご提案

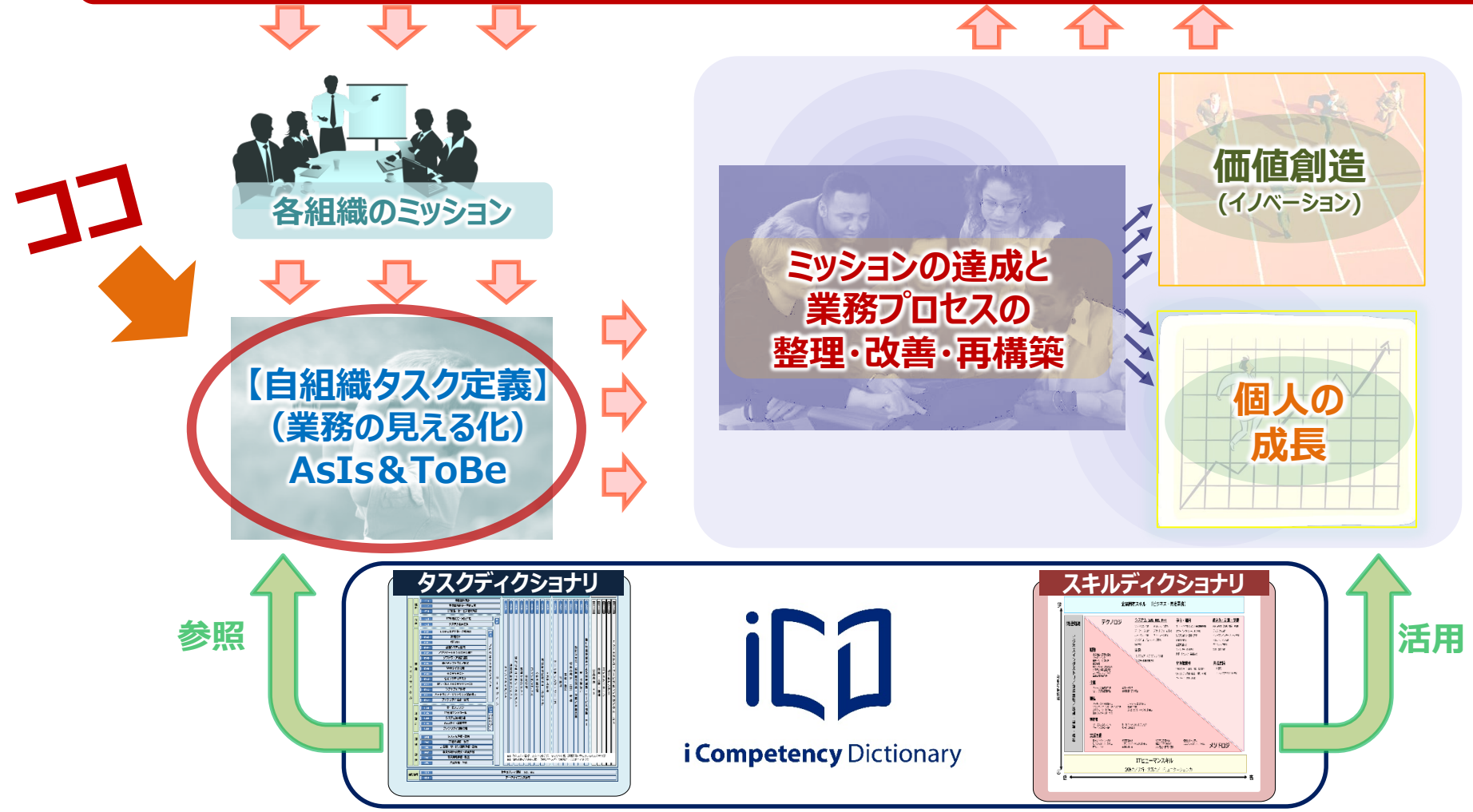
- ・iCDを使用すると、経営戦略に基づいたタスクをベースとした戦力の見える化が出来、人財育成や事業構築などの具体的な施策を見い出すことができます。

ネクストウェアには、iCDの普及促進を目的に設立された一般社団法人iCD協会からも認められている**iCDのアドバイザーやコンサルタント**が在籍し、全国でセミナーやワークショップを担当しております。



経営課題解決の全体イメージ

自組織ビジネス目標（経営戦略）

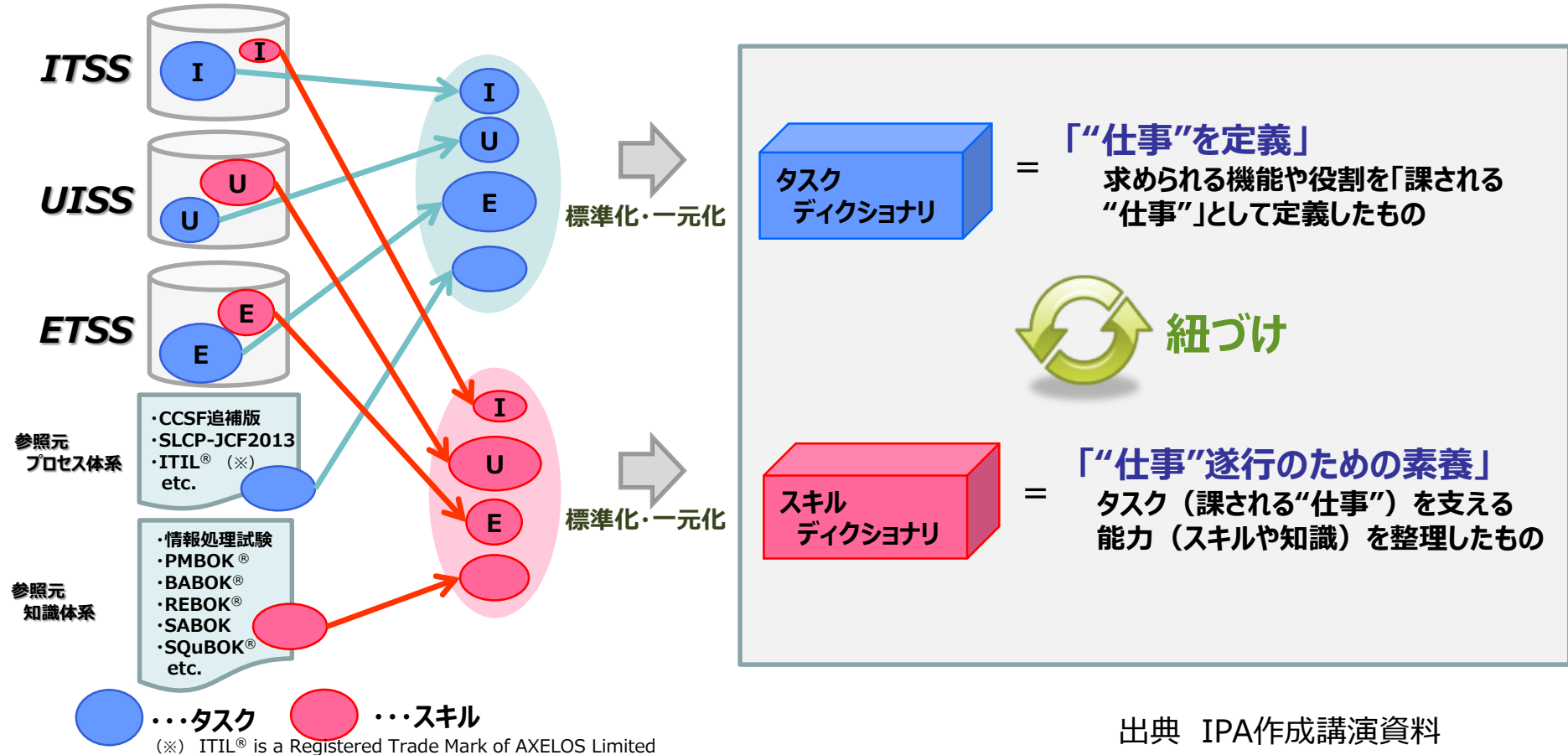


出典 IPA作成講演資料



i コンピテンシ ディクショナリ(iCD) とは

i コンピテンシ ディクショナリ (iCD) は、企業においてITを活用するビジネスに求められる業務（タスク）と、それを支えるIT人材の能力や素養（スキル）を「タスクディクショナリ」、「スキルディクショナリ」として体系化したもの。
IPAは、2014年7月31日にiCDの試用版を、2015年6月30日にその正式版となる「iCD2015」を公開。2016年6月6日に「iCD2016」、同年11月7日に「iCD2016V2」、2017年6月20日に「iCD2017」を公開。



出典 IPA作成講演資料



タスクディクショナリ(一部抜粋)

タスク一覧 (抜粋)

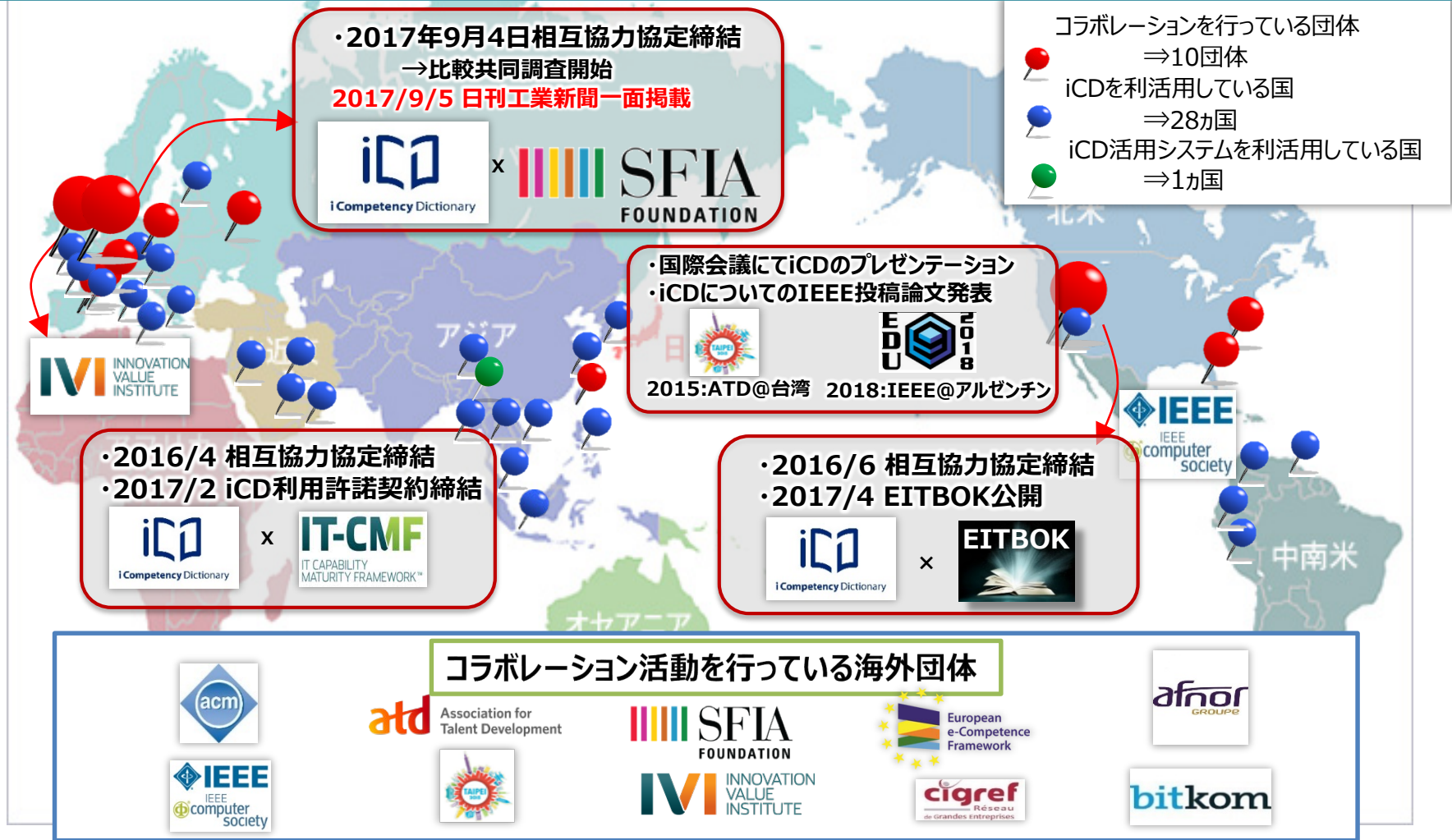
タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	評価項目
アプリケーションシステム開発	ソフトウェア要件定義	機能要件と非機能要件の定義	業務の進め方や業務同士の連携等、ビジネスプロセスに関する要件を定める
			ビジネスプロセス単位の機能要件を定める
			ビジネスプロセス単位の性能、信頼性、使用性、効率性、保守性、移植性等の非機能要件を定める
			検討結果と成果物に基づき、プロセスモデルを作成する
		インタフェース要件の定義	データの受け渡しを行う他の業務および受け渡しを行うデータを抽出する
			データの受け渡しの方向（入力、出力、入出力）、手段、方法、タイミングを検討する
			バックアップ、リカバリに関するデータファイル保全方式を検討する
			サブシステム間や他システムとのインタフェースの要件を定める
		概念データモデルの作成	ユーザビリティを考慮してユーザインタフェースの要件を定める
			システム化対象範囲のすべてのデータを分析し、管理すべきデータを抽出する
			ビジネスルールを踏まえて、システム化対象範囲のデータ構造をER図にまとめる
			データ（エンティティ）とビジネスプロセス（機能）との関連をCRUD図にまとめ、データライフサイクルを検証する
		ソフトウェア要件の評価	システム要件およびシステム方式設計への追跡可能性を評価する
			システム要件との外部一貫性を評価する
			ソフトウェア要件の内部一貫性およびテスト可能性を評価する
			ソフトウェア方式設計の実現可能性を評価する
		パッケージ利用時のフィット&ギャップ分析	運用および保守の実現可能性を評価する
			機能要件に対するパッケージ機能の網羅性を検証する
			外部インタフェース要件に対するパッケージの外部インタフェースの網羅性を検証する
			パッケージを利用する場合は、カスタマイズやアドオンの範囲および各要件変更箇所を決定し、ソフトウェア要件定義に反映する

出典 IPA作成講演資料



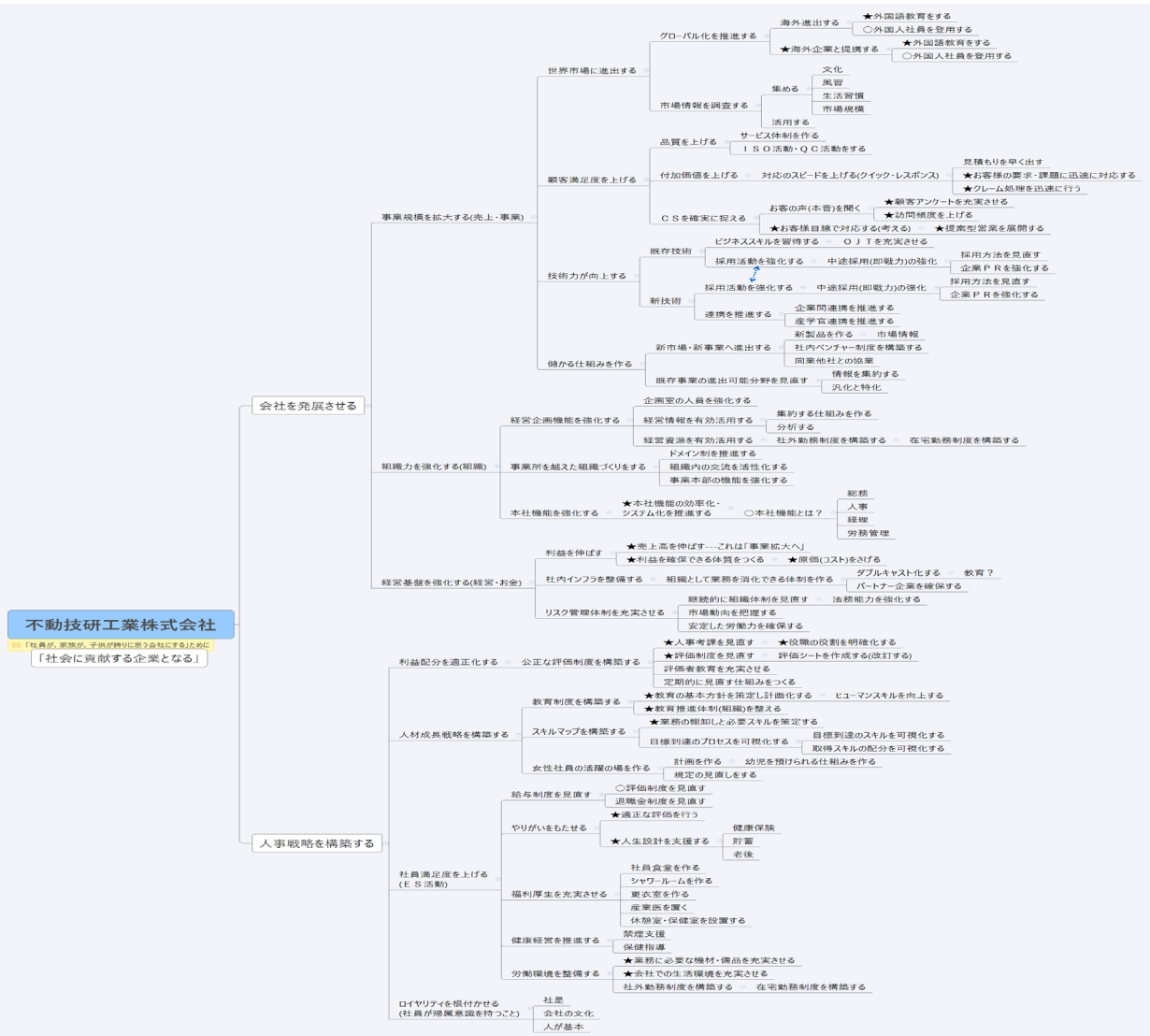
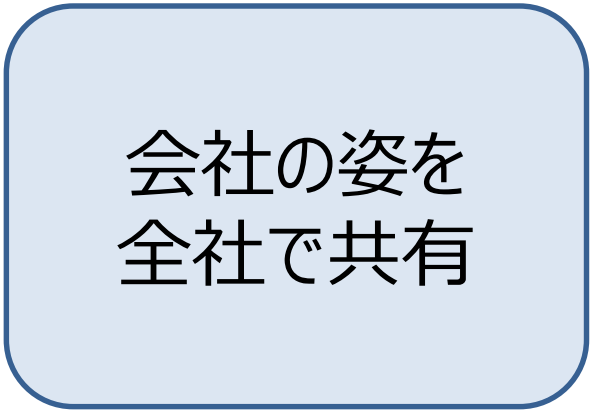
世界に認められたiCD

iCDグローバル展開は、様々なコラボレーション活動を通じて進んでいます



出典 IPA作成講演資料

iCDの活用成果物①(自社要件定義)



iCDの活用成果物②(ヒートマップ=戦力マップ)

■システム部員を対象にモニタリングを行った結果

評価項目診断

[illegible]

例えば、以下のようなことが見えるようになる。

- ・全体的に、「ミドル」と「エキスパート」の中間層が薄い。
- ・「04アーキテクチャーユニット」で「シニア」以上の層が薄い。
- ・「環境分析」「品質統制」をできる人材が少ない。
- ・「ネットワーク設計・構築」をできる人材が少ない。

など

戦力マップ^o（中分類単位）

		該当者数: 51名 (レベル判定者: 25名、レベル未判定者: 26名)									
	大分類	中分類	エドトリ Level1	アシスタント Level2	アシスタント Level3	エディター Level4	エディター Level5	エディター Level6	エディター Level7	合計	
01ユニット	環境分析	【システム環境分析】経営や事業方針の環境に即した理解	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム環境分析】当社の環境に即した理解	×	×	×	×	×	×	×	×	18
		【システム環境分析】当社ユーザー部門の作業方針に対する理解	×	×	×	×	×	×	×	×	18
		【システム環境分析】部門作業方針に即した理解	×	×	×	×	×	×	×	×	20
		【システム環境分析】部門作業方針に即した理解	×	×	×	×	×	×	×	×	16
	全社向け導入・評価	【システム環境分析】当社システム資産状況把握	×	×	×	×	×	×	×	×	19
		【システム環境分析】システム資産の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	19
		【システム環境分析】特定の事業方針の策定	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム環境分析】成果基盤の策定と改善評価の業務	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム環境分析】ユーザーの事業方針に即した理解	×	×	×	×	×	×	×	×	16
02ユニット	ユーザー・制約支援	【部門システム制約策定】ユーザー部門の策定に即した理解	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【部門システム制約策定】ユーザー部門の策定に即した理解	×	×	×	×	×	×	×	×	16
	ユーザー・制約支援	【部門システム制約策定】業務要件定義	×	×	×	×	×	×	×	×	15
		【部門システム制約策定】システム設計の事業方針に即した支援	×	×	×	×	×	×	×	×	16
	ユーザー・活用促進	【部門システム制約策定】運用計画の策定	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【部門システム制約策定】部門方針の策定	×	×	×	×	×	×	×	×	14
		【社内利用サービスと活用推進】IT活用推進	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【社内利用サービスと活用推進】教育・研修	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【社内利用サービスと活用推進】活用状況の把握・フィードバック	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【社内利用サービスと活用推進】活用状況の把握・フィードバック	×	×	×	×	×	×	×	×	14
03ユニット	部門システム概要設計	【システム化計画の策定】経営方針・システム化の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	17
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	17
		【システム化計画の策定】システム化に即した理解	×	×	×	×	×	×	×	×	15
		【システム化計画の策定】ユーザー要件のシステム化	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】ユーザー要件のシステム化	×	×	×	×	×	×	×	×	18
		【システム化計画の策定】ユーザー要件のシステム化	×	×	×	×	×	×	×	×	16
	プロジェクト統括	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	17
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	17
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	17
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	18
サービスマネジメント	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	15	
	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16	
	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16	
	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16	
04ユニット	全社向け導入・評価	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
	システム概要設計	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
システム概要設計	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16	
	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16	
	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16	
	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16	
	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16	
05ユニット	システム概要設計	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
	システム概要設計	【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16
		【システム化計画の策定】運用・運用・運用・運用の把握	×	×	×	×	×	×	×	×	16

戦力マップ^o（大分類単位）

[illegible]

レベル	呼称
Lv7	マスター
Lv6	エキスパート
Lv5	リーダー
Lv4	シニア
Lv3	ミドル
Lv2	アシスタント
Lv1	エントリー

	該当者なし
	1人以上
	2人以上
	4人以上
	5人以上
	7人以上

レンジ図書

2019
iCompetency Dictionary
Silver
01-03077 (01)

出典 IPA作成講演資料

iCDの活用目的(各社の主な使い方)



見える化
された
戦力マップ



⇒ ○人財の活用（配置、キャリアマップ）

⇒ ○社員教育（社内研修、教育プログラム）

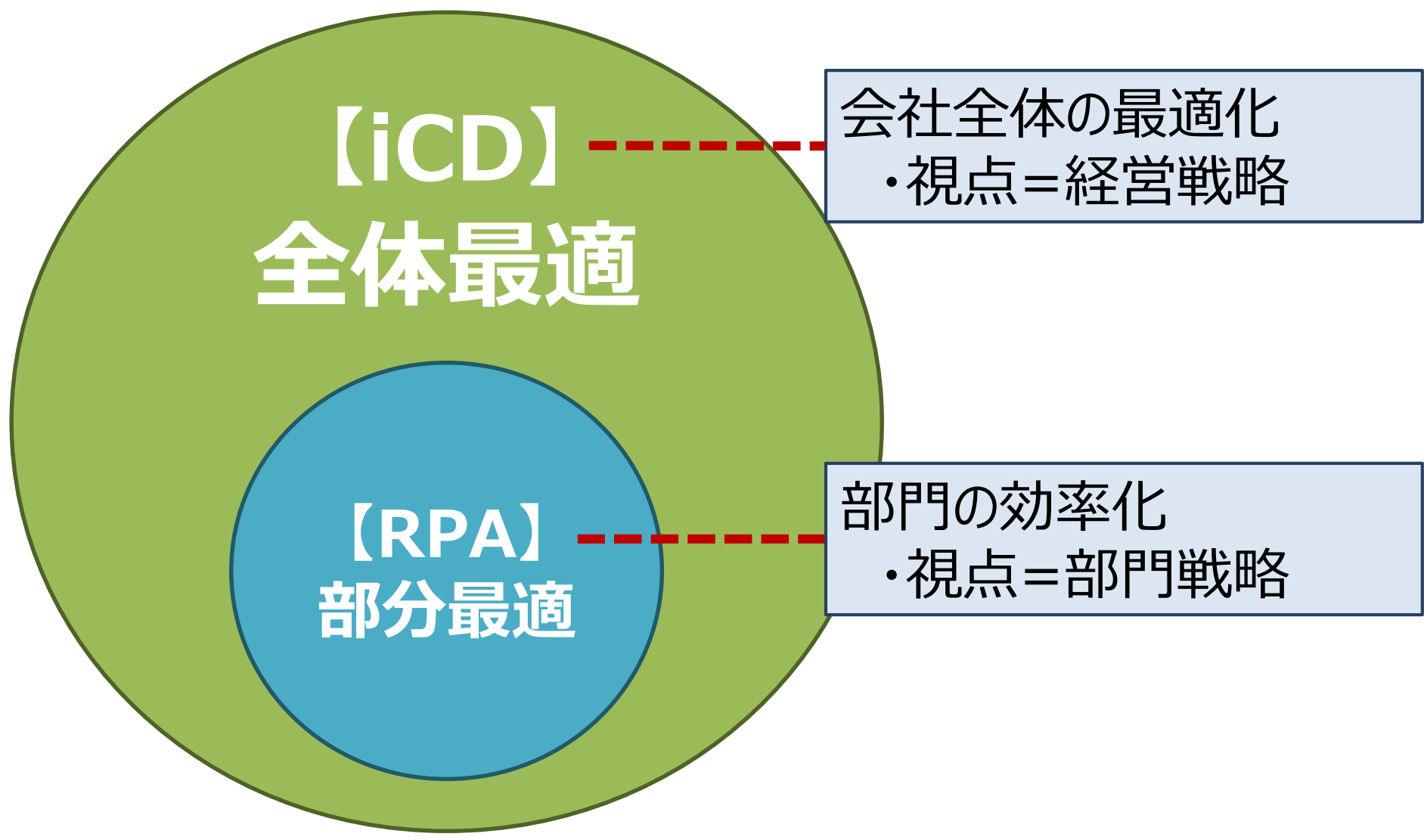
⇒ ○採用ツール、社員PRツール

⇒ ○新規事業策定
（経験レベル体系化、候補選定）

⇒ ○人事評価制度
（制度構築、既存制度への組み込み）



まとめ 働き方改革実現へ



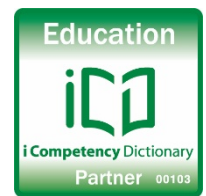
最後に

企業の課題解決において、コスト削減と人財育成は、常に存在する永遠のテーマと言えます。

ネクストウェア株式会社は、
 ・コスト削減の視点による**RPA(WinActor/Director)**
 ・人財育成の視点による**iCD**
 を同時にご提案できる**日本唯一の企業**です。

また、iCDを活用した教育プログラムに関しても、**(株)インフォテック・サーブ様**
(iCD研修・教育機関認証企業)のご協力を得て、ご提案いたします。

是非、弊社におまかせください。



サンプル

※ネクストウェア(株)、(株)インフォテック・サーブはともに、iCD活用企業認証と同時に、iCDの推進及び運用のコンサルティング活動も行っております。



ご清聴ありがとうございました

お問い合わせ：



ネクストウェア株式会社

URL : <http://www.nextware.co.jp/>

E-mail : o.tsuchida@nextware.co.jp

TEL : 03-5447-2511

- IPA **iCDオフィシャルサイト**
URL : <http://icd.ipa.go.jp/icd/>